

1 情勢報告

ハウスシシトウ・ピーマン部会におけるIPM技術の普及



活躍が期待される天敵
（左上：コレマンアブラバチ、右上：スワルスキーカブリダニ、左下：タイリクヒメハナカメムシ、右下：ナミテントウ）

J A土佐くろしおハウスシシトウ・ピーマン部会では、昨年度急速にIPM技術の普及が進み、天敵を用いた害虫防除に取り組んだ農家が約80%まで増えました。

生産者の方からは、天敵による害虫防除による防除労力・経費の削減などの効果がみられ、高い評価を頂きました。

8月にはIPM技術の勉強会を開き、昨年度の反省から冬季に天敵を減少させない対策等について検討しました。

24園芸年度が始まり、さらに天敵導入農家が増え、両部会合わせて90%以上の方が取り組んでいます。

現在J Aと振興センターが中心となって、天敵導入農家が失敗しないような指導体制づくりを行っています。

梶原町田野々部落が集落営農の先進地視察を実施（8月23日）



吉延営農組合で説明を受けている様子

梶原町田野々部落が集落営農について検討を始めるに先立ち、先進事例である吉延営農組合とセツ瀏筍加工組合を訪ね、取り組みの経過や現状、集落営農ビジョンなどについて説明を受けました。

参加者は、機械の共同化の進め方や、集落の意見集約の手法、リーダーシップなど、現地の様子に触れ、学ぶことができました。

9月から田野々部落で集落座談会を行い、その中で意見集約を進めていきます。

経営改善に向けた、梶原町の認定農業者への面談を実施（9月5～6日）



認定農業者の面談の様子

梶原町担い手育成総合支援協議会はその活動の一環として、認定農業者の農業経営改善計画目標年（5年目）のフォローアップを行いました。

町、J A、振興センターの担当が、認定農業者と面談し、農業経営改善に向けての、計画の達成状況の聞き取り、改善に向けた意見交換及び情報提供を行いました。

中山間地域の特性にあった、基幹品目を柱とした複合経営が模索・実践されており、振興センターでは関係機関と連携して、個々の経営体の計画実現を支援していきます。

1 情勢報告

大野見地域農業の将来を考える意見交換会の開催（9月2日）



中土佐町大野見地域の農業者、中土佐町、J A四万十、振興センターが集まり、『大野見地域農業の将来を考える意見交換会』が開催され、「農業機械の共同利用」をテーマに意見交換会が行われました。

会では、振興センターから農業機械の共同利用の概要（タイプ）の説明の後、四万十町の見付権七宮農協議会の取り組み事例を聞き、大野見地域で取り組むにはどういった方法が良いのか意見交換が行われました。

機械の受託料金、機械の更新などに関して質疑が行われ、「できることから取り組んでいったらよいのではないか」などの意見が出されました。その場で行ったアンケート結果から、集落座談会をしたい・視察をしたい意向のある集落が複数ありました。

今後、振興センターでは関係機関と連携し、集落に入って聞き取り等を行い、機械の共同利用などの集落営農に向けた支援を行っていきます。

J A土佐くろしお園芸部各品目部会決算総会の開催



J A土佐くろしおの多くの品目部会では、園芸年度が終了する8月に決算総会が開催されています。

平成23園芸年度は、多くの品目で反収や出荷量が増加していますが、震災の影響等を受け平均単価が前年割れをしており、販売額は伸び悩んでいます。

振興センターからは、平成23園芸年度の栽培状況や反省点、調査結果などをもとに、次園芸年度に向けた取り組みや栽培技術などの情報提供などを行いました。

今後も引き続き、生育ステージや生育状況などに合わせ、タイムリーな情報提供を行っていきます。

米ナス・小ナスの産地交流会の開催



米ナス産地交流会
篤農家ほ場での
現地検討会の様子

8月30日に小ナス、9月8日には米ナスの産地交流会がJ A津野山管内で行われました。

小ナスの産地交流会は、促成の産地であるJ A南国市とJ A津野山が参加しました。今回は、収量・品質向上について両産地から活発な意見交換がなされ、現地ほ場では、整枝・摘葉などの実演を交えた検討会が行われました。

米ナスでは、高知県下の雨よけ・露地の米ナス産地の関係者が集まり、品目別研究会も兼ねた産地交流会が行われました。会では、嶺北・津野山での取り組みについて報告がなされ、当振興センターからは、I PM実証ほの現状報告等を行いました。

振興センターでは、今後も米ナス・小ナス産地同士の連携を深め、産地の技術向上に向けて支援を行っていきます。